

## 1. 17を忘れない。

### ○震災から23年。「自分の命は自分で守る」ことの大切さを確かめました。



阪神淡路大震災から23年となる1月17日、体育館にて追悼集会を行いました。「自然災害は、いっどこで起こるかわかりません。だからこそ、いざという時の訓練は、自分の命を守るため大切なことです。学校で起きたら、先生たちは、全力でみなさんを守ります。でも、通学途中や家にいるときはどこに行くのかなど、家族と確認して、自分の命は自分で守ってください。」と確かめた後、震災当時、

阪神の学校に勤務していた本校の多田先生に当時の体験を、話してもらいました。改めて、あたりまえのように過せることのありがたさと、いざという時、自分の身を自分で守る大切さを感じることが出来ました。

全員で黙祷した後、「しあわせはこべるように」を合唱しました。短い時間でしたが、学校全体が子ども達の歌声で包まれる中、命の大切さと防災意識を確かめ合うことが出来ました。さらに、一時間目の終わりには、津波を想定した避難訓練を行い、実際の避難経路も確かめました。どうか、ご家族でも、いざという時の避難場所や連絡方法について確認する機会としてください。

### ○伝統文化に触れる体験。1月12日

音楽にあわせ、銀屏風のそでから、着物姿の二人の方が出で来られ「常磐津(ときわづ)こうのとり」を踊り始めました。すばらしい衣装と、いつもと違うおごそかな雰囲気子ども達の眼はキラキラ輝いていました。事前に男振(おとこふり)と女振(おんなふり)の足の運びや手の動きを聞いていたので、細かな動きにも興味深く見入っていました。さらに、滑稽な動きがおもしろい「常磐津 福の神」も見せていただきました。



この日は、「**伝統文化 日本舞踊 出前教室**」の日でした。3年生が、伝統文化の学習の一環として但馬舞踊協会のみなさんの踊りの鑑賞と、舞踊の基本の立ち方・座り方などの指導を受け、最後は踊りを教えてもらいました。

一時間ばかりでしたが、本物に触れ、体験することの楽しさとすばらしさを感じた子ども達でした。

○踊りを教えてくださり、ありがとうございました。ぼくは、ジオパークの踊りがすごく楽しかったです。

また、きれいな立ち方や座り方を教えてくださってありがとうございました。

○「こうのとり」はオスとメスがなかよくおどっているみたいでした。「福の神」は、福の神が重たい荷物を持って踊っているようすがよくわかりました。

○立ち方、すわり方など、今まで気にせずしていました。でも、きほんの立ち方、すわり方などみんなの前ですると「すごい!」といわれました。

(児童の感想より)